18
サキュバス調教シミュレーション
Succubus Break
サキュバスブレイク
SQ SOFT

私を調教…？　人間って面白いことを考えるのね…いいわよ…遊んであげる……❤

あなたの分身である調教師。
愛らしい美少女ですが、その身体にはある秘密が…

あなたは夢魔を調教する調教師となり、魅力的なサキュバスたちを調教し、従順な性奴隷に仕立てあげます。
「愛撫」「フェラチオ」などのコマンドを駆使して彼女たちを手なずけ、奉仕の悦びを教えてあげましょう。
夢魔との愛に目覚めるもよし、凄腕の調教師として大陸に名を轟かせるもよし。
すべてはあなた次第です！

調教を成功させるにはセックスコマンドが一番！
サキュバスさんも御満悦の様子…❤

「愛撫」「フェラチオ」をはじめ、調教コマンドは全部で69種類。
夢魔の反応を見ながら、適切なコマンドを選択していきましょう。
夢魔の興奮が充分に高まったら、正常位などのセックスコマンドが使用可能になります。
セックスコマンド使用中は屈服ゲージの増加が加速します。
さらに夢魔の絶頂と同時に膣内に射精してやれば、好感度にボーナスが発生します。

「サキュバス」「インプ」など36種類の夢魔が登場し、それぞれ調教のしやすさが異なります。
調教のすすんだ夢魔は助手として調教に参加させることができ、「３Ｐ」などの上級コマンドが使用できるようになります。
一部の夢魔の攻略には助手の存在が欠かせません。助手の使い方がゲーム攻略のカギになるでしょう。

夢魔たちにはそれぞれ相性があり、相性のよい夢魔同士だと勝手に調教をすすめてしまいます。
しかし、夢魔同士が仲良くなりすぎると…？

ふふっ…。　あの小さかったお嬢ちゃんがね…
いま、こうして私を腕の中に抱いているなんて…❤

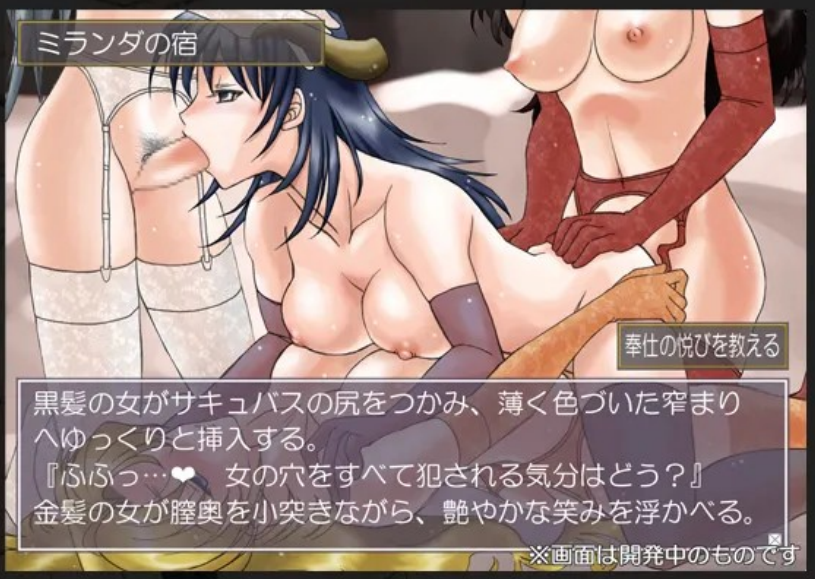
『サキュバスブレイク』では、夢魔の他にもたくさんのキャラクターが登場します。
彼女たちの役割は様々です。主人公のサポートをしてくれたり、様々な援助をしてくれたり、調教の手助けをしてくれたり…。
彼女たちの協力を受けつつ、夢魔の調教を成功させましょう！

おたすけメイドのマリーカさん。
もちろん、彼女も「調教」できます。
実は彼女のシナリオが一番エロいという噂…❤

一国の君主には見えない帝陛下。ブッ飛んだ言動が目立つお姉さまだが、実はお年頃の娘がいる…。

調教に効果のある施設の建設には皇帝陛下の許可が必要です。
そして許可を得るには、陛下の機嫌を取らねばなりません。
調教した夢魔を皇帝に一晩預け、「奉仕」させるのが効果的です。
もちろん、主人公自身が陛下に「奉仕」しても構いません。
あなたとともに濃密な一夜を過ごせば、陛下の機嫌もすこぶる良くなるはず。
――もっとも、陛下を満足させるには、それなりの「精力」が必要ですが。

調教には育成の面もあります。
繰り返し調教を行うことによって夢魔はより美しく、より淫らに、より快楽に目覚めてゆきます。
性の技巧を追求し、淫靡な娼婦に育てあげるもよし、純愛を貫き愛を勝ち取るもよし。
すべては調教師であるあなた次第なのです！



ゲーム中盤になると利用できる娼館、「ミランダの宿」
性戯のエキスパートである娼婦たちにかかればサキュバスさんも…❤

御主人さまにはいつも可愛がってもらってるから…。
今夜は、アタシが御主人さまを可愛がってあげる❤

ふたなりの秘術で夢魔にオ○ンチンを生やさせ、女主人を犯させます。
女では味わえない快楽に、サキュバスさんも思わず…❤

SQFのFはFutanariのF！
もちろん、サキュバスブレイクも例外ではありません❤
ゲームをすすめると入手できる「禁断の知識」を研究すれば、夢魔にオ○ンチンを生やさせることができるようになります。
ふたなり夢魔と女主人が互いに犯し合い、白濁にまみれる光景はSQFの醍醐味！
いいですね？
SQFのFはFutanariのFです！

サキュバスブレイクには基本的に時間制限はありません。いつでも、どこでも、好きな時に「エンディング」ボタンを押せば（極端な話、ゲーム開始直後でも！）、そこでエンディング判定が下され、エンディングを迎えることが出来るのです。
重要なのはエンディングを迎えることではなく、夢魔たちと過ごす、ごく平凡な愛と欲望の日々（ぶっちゃけるとHシーン）なのです。

数あるエンディングの中の一つ、女主人孕ませエンド。
調教していたはずがいつのまにか調教され…。
夢魔の魅力は、それほど危険で甘美なものなのだ。

必須システム環境
ＯＳ：Windows XP以上
ＣＰＵ：Pentium4プロセッサ1.5GHz以上
メモリ：512MB以上
HDD空き容量：11GB以上
内容
ゲームディスク：２枚
サウンドトラックCD：１枚
説明書：１冊
設定資料集：１部
ワールドマップ＆夢魔図鑑：1枚

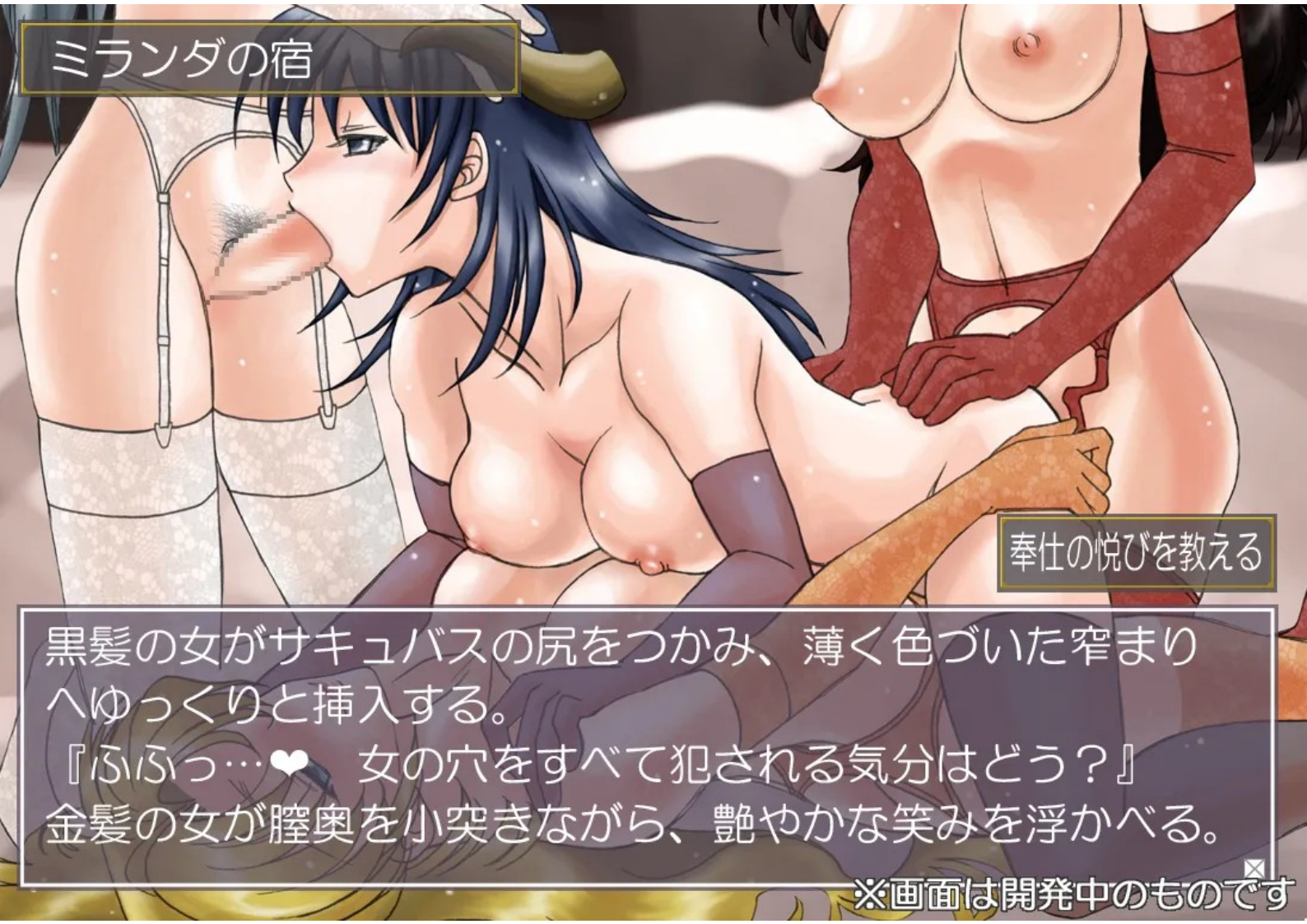
サキュバス　調教中
Assistant
ITEM
愛撫
リリスに遊ばせる
「あれ～？　なんだかエッチな匂いがするよ…？」
インプの無邪気な声がサキュバスの耳朶をうつ。
愛らしい指が夢魔の秘裂へ伸び、蜜をゆっくりかき混ぜる。
「ふふ…っ　もぉすっかりグチョグチョだね…❤」
※画面は開発中のものです

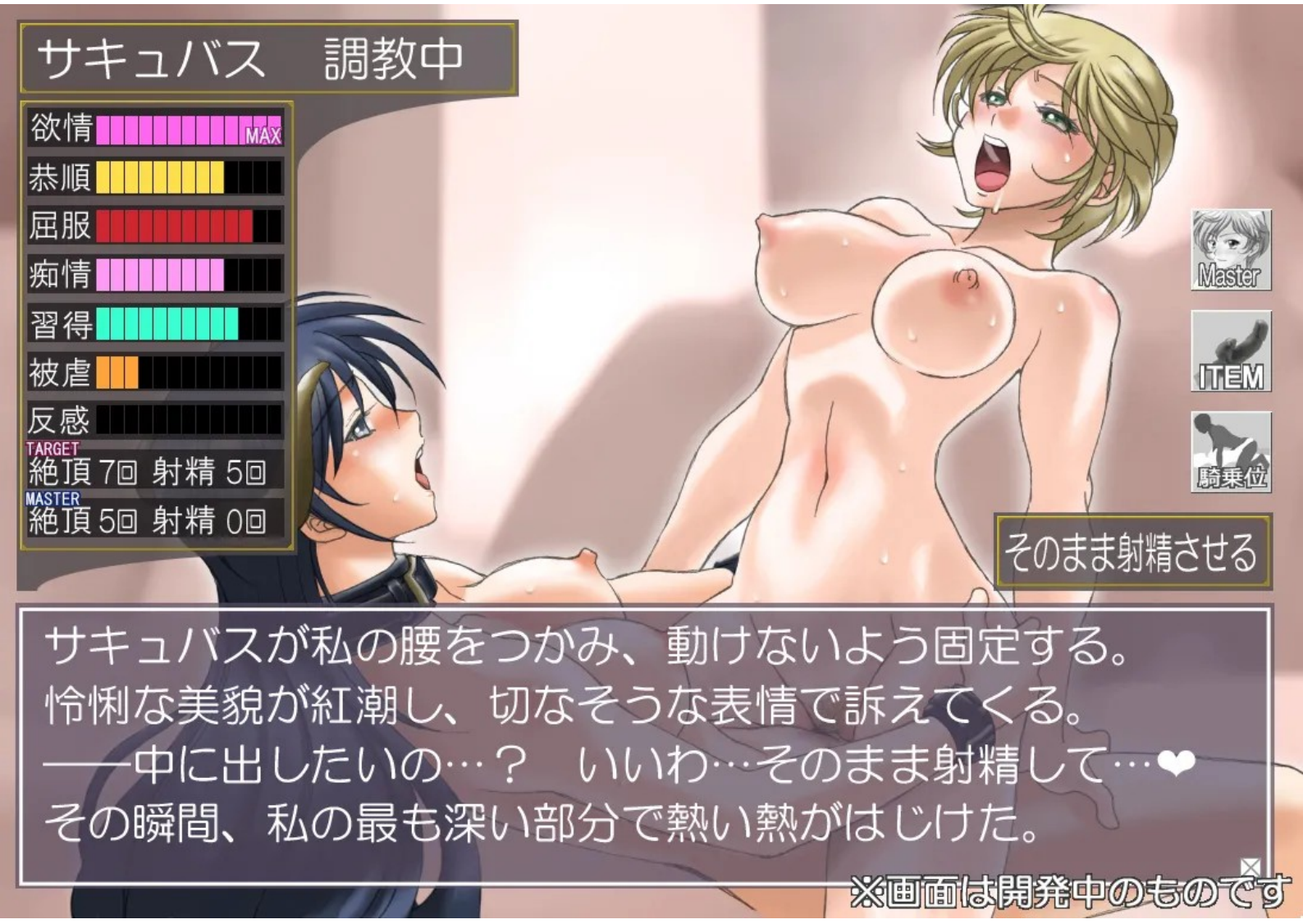
皇宮　皇帝の私室
皇帝に謁見する
「あら、いらっしゃい❤
資金が欲しいの？　それとも施設建設？
それとも…私とセックス？」
――相変わらず陛下は絶好調のようだ。
※画面は開発中のものです

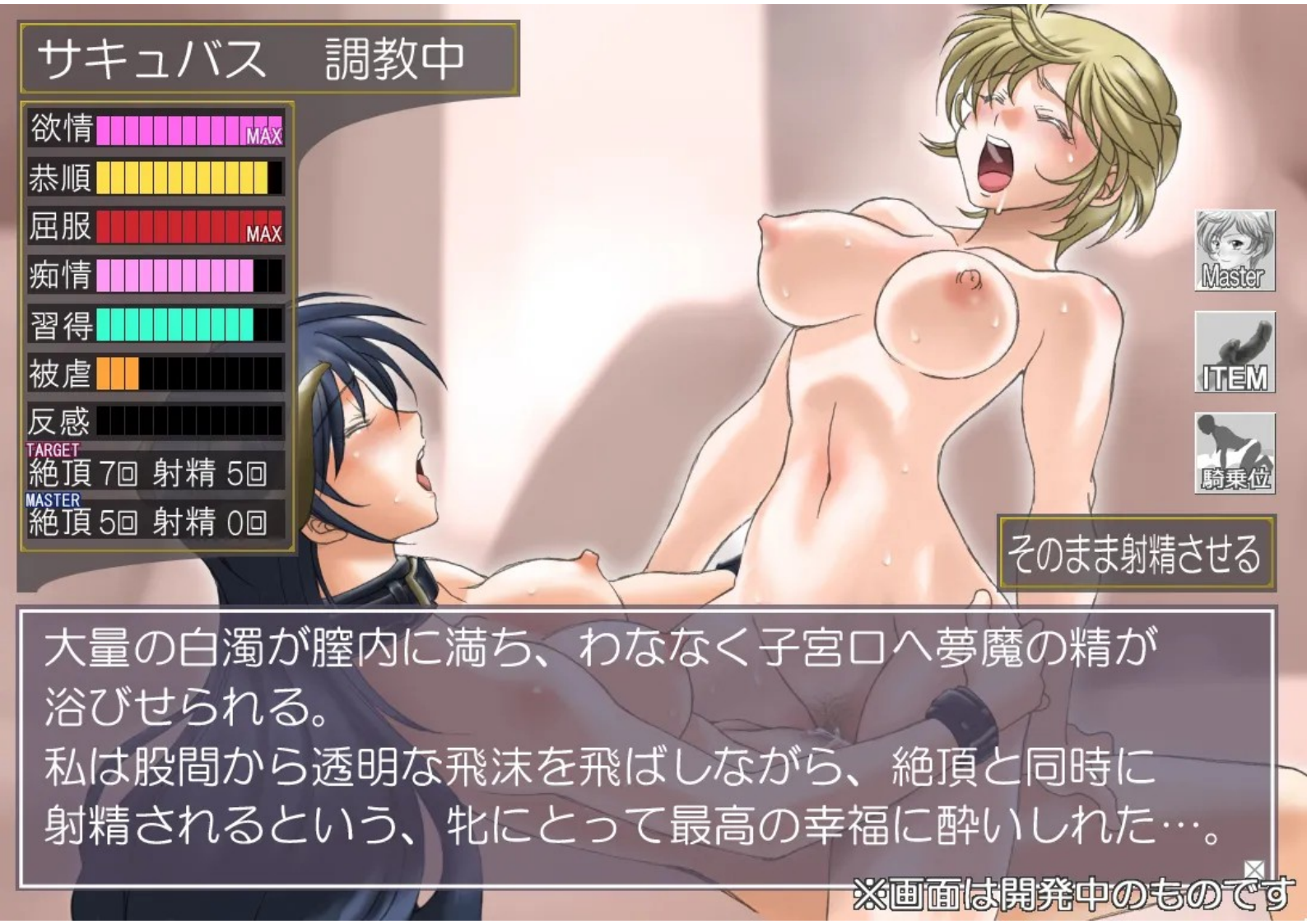
サキュバス　調教中
欲情
恭順
屈服
痴情
習得
被虐
反感
TARGET
絶頂 4回 射精 0回
MASTER
絶頂 1回 射精 1回
Master
ITEM
正常位
膣内に射精する
サキュバスがビクリと身体を震わせ、股間から飛沫を吹き散らす。
私はサキュバスの手を握りながら強く腰を押しつけ、彼女の最奥で欲望のかたまりをはなった。
※画面は開発中のものです

「ひィ…ッ！？　ふぁッ❤　はぁあんッ❤」
サキュバスが美貌を恍惚とさせながら歓喜の声をはなつ。
私たちの繋がった部分から愛液と精液の混じり合った汁がこぼれ、クチュリと淫猥な音をたてた…。

※画面は開発中のものです


ミランダの宿
奉仕の悦びを教える
黒髪の女がサキュバスの尻をつかみ、薄く色づいた窄まりへゆっくりと挿入する。
『ふふっ…❤　女の穴をすべて犯される気分はどう？』
金髪の女が膣奥を小突きながら、艶やかな笑みを浮かべる。
※画面は開発中のものです


サキュバス　調教中
欲情
MAX
恭順
屈服
痴情
習得
被虐
反感
TARGET
絶頂 7回 射精 5回
MASTER
絶頂 5回 射精 0回
Master
ITEM
騎乗位
そのまま射精させる
サキュバスが私の腰をつかみ、動けないよう固定する。
怜悧な美貌が紅潮し、切なそうな表情で訴えてくる。
――中に出したいの…？　いいわ…そのまま射精して…❤
その瞬間、私の最も深い部分で熱い熱がはじけた。
※画面は開発中のものです


サキュバス　調教中
欲情 MAX
恭順
屈服 MAX
痴情
習得
被虐
反感
TARGET
絶頂 7回 射精 5回
MASTER
絶頂 5回 射精 0回
Master
ITEM
騎乗位
そのまま射精させる
大量の白濁が膣内に満ち、わななく子宮口へ夢魔の精が
浴びせられる。
私は股間から透明な飛沫を飛ばしながら、絶頂と同時に
射精されるという、牝にとって最高の幸福に酔いしれた…。
※画面は開発中のものです

サキュバス　調教中
欲情
MAX
恭順
屈服
痴情
習得
被虐
反感
TARGET
絶頂 6回 射精 4回
MASTER
絶頂 4回 射精 3回
Master
ITEM
騎乗位
そのまま射精させる
サキュバスが私の奥を突きあげながら股間に手を伸ばし、
先走りの汁を漏らすペニスを掴む。
腰の動きにあわせて敏感な部分をこすられ、私は股間に熱
が集まってゆくのを感じた。
※画面は開発中のものです

サキュバス　調教中
欲情 MAX
恭順
屈服 MAX
痴情
習得
被虐
反感
TARGET
絶頂 7回 射精 5回
MASTER
絶頂 5回 射精 4回
Master
ITEM
騎乗位
そのまま射精させる
サキュバスが私の腰をつかみ、勢いよく精をはなつ。
熱い白濁が膣内に満ち、夢魔の精が子宮口に浴びせられる。
私は大量の精を撒き散らしながら膣を締め、絶頂しながら
射精されるという、牝にとって最高の幸福に酔いしれた…。
※画面は開発中のものです

サキュバスが私の乳房を揉みながら、突き入れたものを膣奥にこすりつけてくる。その先端が大きく膨らみ、生温かい汁が漏れ出る感覚。
「アハ…ッ❤　お腹の中までそそいであげる…❤」
私は歓喜に身震いしながら膣を強く締め、彼女の射精が気持ちよいものになるよう努めた。

※画面は開発中のものです

熱いものがはじけた瞬間、私も絶頂を迎えていた。
ほとばしる精液が歓喜する子宮にあびせられ、その奥で育つ新しい生命に、新鮮な栄養を送り届ける。
「ふふっ…きっと元気な赤ちゃんが産まれるわよォ…❤」
サキュバスは嬉しそうに私のミルクを搾りながら、射精のつづくペニスを膣奥にこすりつけてきた…。

※画面は開発中のものです

膝の上で私を抱きかかえたままサキュバスが私の手を取り、先走りの汁を漏らすペニスを握らせる。
「ふふッ…❤　オチンチンが寂しそうにしてるわ…だから、慰めてあげないと…❤」
私は急速に高まる射精感に翻弄されながら、絶頂に向かってのぼり続けた。

※画面は開発中のものです

私が絶頂を迎えた瞬間、サキュバスも達したようだ。
ほとばしる精液が歓喜する子宮にあびせられ、その奥で育つ新しい生命に、新鮮な栄養を送り届ける。
「ふふっ…きっと元気な赤ちゃんが産まれるわよォ…❤」
私はサキュバスにミルクを搾られながら、続けざまに何度も精をはなった…。

※画面は開発中のものです

私が絶頂を迎えた瞬間、サキュバスも達したようだ。
ほとばしる精液が歓喜する子宮にあびせられ、その奥で育つ新しい生命に、新鮮な栄養を送り届ける。
「ふふっ…きっと元気な赤ちゃんが産まれるわよォ…❤」
私はサキュバスにミルクを搾られながら、続けざまに何度も精をはなった…。

※画面は開発中のものです

サキュバス調教日誌の
Something setting data of Succubus Breaking diary
設定資料的な何か

サキュバス
Succubus breaking diary
・フル装備のサキュバスさんです。実は、着衣状態のサキュバスさんが描かれるのは、これが初めてだったりします。
・夢魔に個人名というものは元来存在しないそうなのですが、お嬢さまが「ブランカ」と名づけられました。本人もわりと気に入っておられるようで、お嬢さまも安堵なされております。
・パンツ丸見えですがサキュバスなので恥ずかしくないそうです。
・羞恥心というものがあまり無いのでしょうね…。
・パンツはTバックを好んで穿いておられます。お尻の形が最も綺麗に見えるので、気に入ってるそうです。
・男性経験は軽く三桁を越えます。女性経験も豊富なようです。
・つまり両刀ですね。お嬢さまが調教するに相応しい、素晴らしいサキュバスであると思います。
Bianca
the Succubus

Blanca the Succubus

Succubus breaking diary

・調教される時は当然ハダカです。羽根が無くなってしまいましたが、「あんなものは飾りです。偉い人には（ry」とのことです。
・ブランカさま本人の弁によると、羽根やツノといった小道具は夢魔の人外感を演出するために作り出された幻影で、本来の姿は私たち人間とあまり変わらないそうです。
・夢魔の能力を封じられているので羽根が出せなくなっているのですが、それならツノも同じように無くなるはずでは…というのは、野暮というものです。

・後ろからペニスを挿入して腰を打ち付けたらとても良い音がします。締まり具合や襞の絡みつきも絶品とのこと。
・これまでに最も多くの男性を相手したのは、どこかの駐屯地に潜り込んだのが見つかり、五十人くらいの兵士に捕まって輪姦された時だそうです。
・危うく気を失いかけたそうですが、逆に騎乗位で全員を搾り倒したとのこと。
・そんなブランカさまに挑まれ、奴隷として調教することに成功されたお嬢さまは、やはり最高ですね。

Blanca the Succubus

御主人さま

Succubus breaking diary

・この愛らしい少女が私のご主人さまです。お名前をバーデル伯フレイヤ・フォン・レンツと申され、親しい方にはフレイと呼ばせておられます。

・私ですか？　私は心よりの敬慕をこめ「お嬢さま」とお呼びさせていただいております。

・若年ながら名門貴族の御当主であらせられます。

・サキュバスを調教するなどという酔狂な趣味をお持ちの方ですが、聡明で慈愛に満ち、適度に我がままな可愛いお嬢さまです。

・お嬢さまの最大の身体的特徴である固くて太くて立派なオチンチンですが、普段は親指くらいの大きさなので容易に下着の中に収まります。

・根元の少し膨らんだ部分が男性器の「玉」に当たる部分で、ここで精液がつくられます。

・時々急に下着の中で元気になりお嬢さまを悶絶させてしまう暴れん坊ですが、私に夜ごと女の悦びを与えて下さる素晴らしいオチンチンです。

・一晩に三回は余裕です。

Freya
The Master

メイドさん

Succubus breaking diary

・紹介が遅れました。今回案内役を仰せつかりました、メイドのマリーカです。

・御屋敷内の諸事全般に御領地の差配、ブランカさまの調教をサポートしてベッドの中では愛人…とマルチな仕事をこなすスーパーメイドです。

・ちなみに破瓜は14歳の時で、相手はもちろんお嬢さまです。

・お嬢さまのアレが私の中に入り、体奥へ熱いものが放たれた時の幸福感…思い出しただけで3回はオナニーできます。

・好きな体位は正常位ですが、お嬢さまが望まれるのであればどのような体位であろうとそれが私のフェイバリット体位です。
野外立位？
余裕ですがなにか？

・髪の毛はふだん頭の両側で縛っていることが多いのですが、夜の御奉仕の時には左のように結いあげることもあります。

・「綺麗に整えられていたのが時間が経つにつれて乱れていくのがエロくて良い」とお嬢さまも御満悦の様子。計算通り。

・下着はすぐに行為におよべるよう、脱がせやすいものを身につけておくのがメイドのたしなみというものです。

Malika
maid-servant

サキュバス調教日誌①

The First Night

私はサキュバス。名前は無い。気が付くと、豪華な調度品に彩られた寝室に裸で寝ていた。どうしてこんな所にいるのか、どうやってここに連れてこられたのか分からない。飛翔や霊体化の能力も封じられているようだった。
首にはめられた首輪から何やら強い魔力を感じるのだが、もしかしてこれが原因だろうか？

脱出の方法を考えていると、ほどなく一人の少女が現れた。どうやらこの娘が私を捕らえ、監禁した張本人らしい。利発そうな女の子だが、生意気にも私を調教するなど言っている。身の程知らずもいいところだが、好みのタイプだったので遊んでやることにする（私は女の子もイケるクチなのだ）。

The First Night

「まずはキスからね」
少女は私に近づくと、おもむろに唇を重ねてきた。調教というからどんなハードな行為をするかと期待していたが、案外普通…
…え？　うそ…この娘…すごく…じょうず…❤
唇を合わせているだけで胸に幸福感が満ち、腰の奥が熱くなる。
キスだけでこんなに気持ちよくなってしまうなんて…。

ベッドに押し倒され、本格的な調教がはじまった。
丁寧な愛撫に興奮が高まり、身体の奥に悦びが満ちてゆく。
乳房を揉まれ、舌先で転がすように乳首をしゃぶられると私の理性は完全に飛んでしまい、みずから股間を少女の腰にこすりつけ、ここも可愛がってほしいと懇願するようになっていた。
…なんだかカタいモノがアソコにあたっているけど…これは一体…？

The First Night

なんと、少女の股間には成人男性のそれよりも立派なペニスが屹立していた。
なんでも、彼女の一族には夢魔の血が混じっているらしく、時々彼女のような身体の娘が産まれるそうだ。
…だめ…こんな美味しそうなオ○ンチンを見せられたら…
——私はかぐわしい芳香をはなつそれを手に取ると愛しそうに口づけ、音をたてて舐めはじめた。

少女が私の頭を撫で、フェラチオを褒めてくれる。
嬉しくなった私は少女に逆さまに覆いかぶさるとシックスナインの姿勢を取り、互いの性器を舐めあった。
そりかえったものへ奉仕しながら恥ずかしいくらい濡れている性器を可愛がられ、私はすすり泣きのような声を漏らした。

T[illegible] Night

「そろそろ…いいわね？」
少女の問いかけに、私は夢中で頷いた。
ベッドに這わされ、迎え入れる姿勢を取らされる。
私…もうすぐこの子のものにされちゃうんだ…。
期待にわななく膣口に少女の体温を感じた次の瞬間、私は少女に犯された。

少女は私の膣内にペニスを埋め込んだままじっと動かず、私の中の感触を愉しんでいるようだった。
「動くわよ…？」
少女の腰がゆっくりと前後に揺れ始め、私をのけぞらせる。
私の感じる場所を探る動き…私を悦ばせるための動きだ。
ほどなく私の弱い部分はすべて少女の知る所となり、私は、少女の律動に歓喜の声をあげて応えるほかなかった。

The First Night

「お願い…出して！　このまま膣内(なか)へ射精(だ)してっ❤」
少女の腰の上で尻を振りたくり、膣内への射精を懇願する。
彼女は私が完全に堕ちたと見ると腰を掴んで抱き寄せ、耳元で囁いた。
「素直ないい子…御褒美に、あなたの大好きなものをあげる」
少女が小さく呻く。その瞬間、膣の中のペニスから勢いよく熱がはじけ、
膣奥に精液のかたまりが叩きつけられた。
「あ…あひぃいいッ❤」
かつて経験したことのないほどの快感が身体中に満ちあふれ、私は歓喜の
声をはなちながら潮を吹いて絶頂に達した。

The First Night

こうして、私は少女の奴隷になった。
以後、私は調教奴隷として、いつでも、どこでも、誰にでも、求められればこの身体を提供し、調教に応えなければならない。
これだけ書くと酷い扱いを受けているように感じられるかもしれないが、屋敷内での行動の自由は認められているし、衣食住も保証されている。
なにより、私の主人となった少女――フレイの調教は、私を満足させるに足る快楽を与えてくれるだろう。奴隷というのも悪くない身分だ。

調教の終わりに、少女は私に名前をつけてくれた。
ブランカ。
古い言葉で”白”という意味だそうだ。
どういう意図をもってこんな名前にしたのか気になるが、それは追々ベッドの上で教えてもらえるだろう。
これから御主人さまにどのような調教をしてもらえるのか…それを想像すると子宮の奥が疼いて仕方がない。

調教が終了しました。

サキュバス調教日誌②

The Second Night

私はブランカ。調教奴隷のサキュバスだ。
この屋敷で暮すようになって、はや半月。
屋敷内での行動の自由は保証されているが、
他に何もすることが無いので暇を持てあましている。

しょうがないので屋敷の中をウロウロしているのだが、足が自然と御主人さまの部屋に向かってしまう。

道中、メイドに見つかり、白い目で睨まれた。
どうやら、「裸で屋敷内をうろつくな」ということらしい。

「あら、ブランカ。どうしたの？」
書類仕事をしていた少女が私に気づき、にこりと微笑む。

この少女が私の御主人さま——フレイだ。
見た目はただの小娘だが、
サキュバスの私を閨淫の術で屈服させ、奴隷として調教することに成功した凄腕の調教師だ。

情けないことに彼女の姿を見たとたん胸の鼓動がはやまり、腰の奥が潤んできてしまう。

私の表情の変化を見た少女が艶然と笑みを浮かべ、「したいの？」と問うてくる。

Succubus breaking diary

The Second Night

私は嬉々としてフレイの膝上にまたがり、細い身体を抱きしめた。
互いの体温を感じながら唇を重ね、舌をからめあう。
軽く愛撫されているだけなのに、ただ口づけをかわしているだけなのに
胸に幸福感が満ち、身体の芯から熱くなってゆく。

「…ブランカ…私が欲しい……？」

夢中で頷くと、フレイは私を隣のベッドルームへ連れ込み、素早く衣服を
脱ぎ始めた。

The Second Night

フレイが裸になり、瑞々しい肌があらわになる。
その股間には、少女の身体には本来付いているはずのない器官——野太く猛々しいペニスが屹立していた。
これが私の御主人さま、フレイ。
彼女が、女性では身につけることのできない調教の技術を会得できたのは、このペニスのおかげだという。
（夢魔を調教するには、夢魔の膣内に魔力をこめた精液をはなたなければならないのだ）

「じゃあブランカ、調教をはじめましょう。
まずは貴女をこれから可愛がってくれるオチンチンに挨拶するのよ」

私は、彼女の足元にひざまずくと固く勃起した器官を手に取り、
透明な汁の滲む先端の小穴へ口づけた。
先走りの汁を吸いながら脈打つ幹に舌を這わせ、
喉奥まで咥え口腔全体をつかってしゃぶる。

「いい表情よ…ブランカ、私のオチンチン、好き？」
私は恍惚となりながら奉仕をつづけ、何度も頷いた。

The Second Night

私のフェラチオに満足したのか、フレイは奉仕を中断させると私をベッドに押し倒し、大きく脚を開かせた。
私は胸を高鳴らせながら腰をせりあげ、彼女にすべてをさらけだした。
可憐な唇が濡れそぼる性器に口づけ、私の唇から恍惚の声が漏れる。

Succubus breaking diary

The Second Night

脈打つペニスのすぐ真下で、ピンク色の綺麗な女性器が愛液にまみれて息づいている。
ペニスをしゃぶりながら指を這わせ、膣口をなぞると、「女の子」の快感にあまり慣れていないのか、「あんっ」と可愛らしい声が漏れた。
ここも気持ちよくしてあげたいが、このような状況ではどうしてもペニスの方を優先してしまう。フレイのお姫さまを可愛がるのはまたの機会にしよう。

The Sec ght
性感が充分に高まったと見たフレイが、私に覆いかぶさってくる。
私は自然に迎え入れる姿勢を取り、彼女を受け入れた。
じゅぷりと淫猥な音をたてて性器が結合し、私はフレイとひとつに繋がった悦びに打ち震えた。
S king diary

フレイが巧みに腰をつかい、私の弱い部分を責め立てる。
最初はゆっくりと、徐々にはやく。時おり深々と埋め込んだまま腰をゆすり、膣奥に勃起の先端をこすりつけてくる。
やがて彼女の吐息に甘いものが混じりはじめ、表情が切なくなってゆく。
――フレイが私の中で果てようとしている。
私は嬉しくなり、彼女が気持ちよく射精できるよう、腰の動きをあわせた。
恋人のように手を握りあい、上気した肌を跳ねさせる。
「ブランカ…いくっ！」
フレイが短く呻き、膣内に白濁がぶちまけられた。
私は膣を満たす精液の量と勢いに歓喜しながら激しく腰をゆすり、唇から悦びの声をはなった。

The Se
射精し、いくらか柔らかくなったペニスで膣の中をかき混ぜられる。
グチュグチュと淫らな音を響かせ精液と愛液が混ざりあい、膣襞のあいだに塗りこまれてゆく。
性器から全身に幸福感がひろがり、私はすすり泣きを漏らした。
Succubus breaking diary

The Second Night

フレイの腰にまたがり、なかのものを締めながら尻を振りたくる。
膣の襞の隅々まで精液を満たされ、快楽に蕩けきった肢体をくねらせる。
この子が欲しい。もっと気持ちよくなってもらいたい。膣奥に大量の精を浴びせられ、身体の内側からこの娘のものであるという証しを刻みつけられたい。
私は息をはずませながらフレイの名を呼び、中に射精してほしいと願った。
少女の笑みが深くなり、膣内に深々とペニスが埋め込まれる。
怒張の先端から勢いよく精液がほとばしり、私の最奥を叩く。
白濁の熱と勢いに私は歓喜し、潮を吹いて絶頂に達した。

その後、性器に二回、口腔に一回射精されて調教は終わった。
調教されるようになってから、膣内に乾きを感じたことは無い。

――このように私は毎日調教されている。
一度は私優位にフレイを責めてみたいものだが、彼女に抱きしめられると途端にその気が失せ、一方的に責められてしまうのは、サキュバスとしていかがなものか。
このままではいけないと思いつつも、膣内に射精されるたび全身が快楽に痺れ、「もうこれでいいや」と思ってしまう。

このあと休憩して体力が回復したら「夜の調教」が待っている。
その調教ではメイドも加わり、より濃密な調教をほどこされるだろう。
お気に入りはメイドと私が抱き合った姿勢で交互に挿入される調教だが、どんな調教になるかはフレイの気分しだいだ。
今夜はどのような愉悦を味あわせてもらえるのだろう……。
想像するだけで股間が熱くなり、子宮が疼きだす。

……どうやら調教の時間まで待てそうにない。フレイのことを想いながら、自慰にふけることにしよう。

サキュバス調教日誌③

The Before Night

私はサキュバス。
夜の空を翔け、人々の精気を
糧に生きる夢魔。

ある夜、精気をもとめ都の空を
さまよっていると、若く強い精気
の気配を感じたので、誘われる
ように広い敷地をもつ建物へ
やってきた。

…ここは人間が「学校」と呼ぶ、教育のための施設のようだ。
若い牡と牝のはなつ大量の青い精気に身体を火照らせながら、
私はひときわ強い精気の気配をたどり、その根源を探しもとめた。

Succubus breaking diary

The Before Night

強い精気の持ち主はどうやら魔法的な障壁に守られているらしく、所在が微弱にしか感じられなかったが、痕跡を丹念に探ると、建物の奥まったところ、秘密の入り口に隠された一室に辿りついた。

…愛らしい金髪の少女から、思春期の少女特有の、自分の身体の変化への戸惑いや性への興味とともに、抑えきれない若い情動がつたわってくる。
いずれも私の大好物だが、彼女からは何故か若い牡（オス）の精気も感じとれる。
牡の気配の感じられぬ可愛い女の子なのに…何故だろう？

Succubus breaking diary

The Before Night

The Before Night
気分が高揚しすぎたせいか、彼女を起こしてしまった
お姉さん…誰…？何をしに来たの？
私はサキュバス
あなたの精気を分けてもらいに来たの
サキュバス…？精気…？
怖がらないでいいわ…ぜんぶ私にまかせて…
一緒に気持ちよくなりましょ…❤
少女は私の言葉を正しく理解したらしく、私を見つめる瞳にまぎれも無い性への好奇心が満ちていた
私は眠りの魔法（ヒュプノ）で少女を眠らせるようなことはせず、直接精気を頂くことにした
Succubus breaking diary

The Before Night
少女に覆いかぶさり、
身体を密着させながら
唇を重ねる
小刻みに震える少女の
口腔内に舌をいれ、
熱い唾液を流し込む
濃厚で大胆なキスに少女は
初め恥ずかしがっていたが、
やがて私の舌の動きに応え、
自分から舌を入れてきた
私は少女と舌を絡めながら
自分の柔らかい部分をおしあて、
彼女に「牝」を感じさせた
ubus breaking diary

The Before Night

聞きだしたところによると、少女にはまだ射精の経験が無いらしい。
…おそらく、彼女の「はじめての精液」は、私が搾りだすことになるだろう。
愛らしい美少女の精通の瞬間に立ち会えるとは、サキュバス冥利に尽きるというものだ。

少女がおののきながら腰をふるわせ、未知の快感に声を漏らす。
私は少女が気持ちよく絶頂を迎えられるよう、熱情をこめて奉仕した。

Succubus breaking diary

少女の腰がビクリと跳ね、口腔に大量の精がはなたれる。
ほとばしる白濁の量と勢いに私は歓喜し、軽い絶頂(アクメ)を感じながらそれを飲んだ。

The Before Night

私は少女に跨ると勃起したペニスを手に取り、発情した性器にあてがった。
少女は恍惚とした表情で、私の行為を見つめていた——。

Succubus breaking diary

少女の精は二回目の射精であることを感じさせないほど濃厚で、活力に満ちていた。
私は膣内に白濁がほとばしる感覚を、愉悦とともに味わった――。

The Before Night

私は膣内に白濁が満ちる快感をゆるりと愉しんでいたが、少女は落ち着かない様子で、何やら焦っているように見えた。性交のあとの余韻くらいじっくりと愉しめばいいのに——と思うが、人間世界ではそうはいかないのだろう。

人間と関わるようになってずいぶん経つが、ケッコンという習慣についてはよく理解できない。少女からケッコンの申し出をされて驚いたが、何故か悪い気はしなかった。
——正直に言うと、気分が高揚した。

Succubus breaking diary

The Before Night

念のため言うと、夢魔と人類が交わるようになって数百年。おそらく何百万回も性交が繰り返されたであろうが、サキュバスが妊娠したという例はわずか五例しか無い。人間とサキュバスのあいだに子供が出来るのは、「奇跡」と言ってよいだろう。
そんな奇跡がもし彼女とのあいだに生じるのであれば、私の残りの人生など彼女にくれてやってもよい。——この時の私は、そんなことを考えるほど浮かれていた。

Succubus breaking diary

The Before Night

パンパンと小気味良い音をたて、尻と腰のぶつかる音がひびく。私は荒い息遣いを背に感じながら身体をくねらせ、膣奥に浴びせられる白濁の熱に歓喜の声をはなった。

Succubus breaking diary

The Before Night
少女は性器を結合させたまま
私を仰向けに寝かせ、上気した
表情でおおいかぶさってきた
むさぼるように口づけを
かわしながら身体中をまさぐり、
白濁にまみれた股間に腰を
打ちつける
その技巧は稚拙で単調だったが
私を感じさせようという情熱にあふれ、
おおいに私をよろこばせた
やがて私は歓喜の声をはなちながら
少女の律動に応じるようになり、
射精された時には潮をふいて絶頂した
Succubus breaking diary

The Before Night

その後、膣で7回、口で2回、胸で1回、手コキで1回射精させたが、同時に数えきれないくらい絶頂させられた（おそらく一晩での、一人相手の最高記録だろう）。
東の空が明るくなり始めたので残念ながら退散したが、彼女の精力は尽きる気配がなく、まだまだ頑張れそうだった。

――今夜も少女の寝室におもむき、心ゆくまで逢瀬を愉しむつもりだ。
幸い、彼女の部屋は様々な障壁で守られているため室内での音が外部に漏れる心配は無い。どんなに嬌声をはなっても大丈夫だろう。

――今夜はどんな行為をして愉しもう――少女は学習能力が高いようなので、私の身体を存分に愛撫させ、女を悦ばせるテクニックを仕込んでやろうか、それとも……

――夜が訪れるまで時間はたっぷりある。ゆっくり、考えるとしよう……。

Succubus breaking diary

The Before Night

——次の夜、期待に秘所を潤ませながら少女の部屋を訪れたが、彼女の部屋はもぬけの空になっていた。
学校関係者に近づき、調べたところによると、どうやら私との接触を彼女の後見人に知られてしまい、よりいっそう厳重な保護下におかれることになったらしい。

私は手を尽くして少女を探し求めたが、行方は杳として知れなかった。

私は後ろ髪をひかれる思いをかかえたまま都をはなれ、以前の自堕落で享楽的な日々にもどったが、この夜のような高揚を与える獲物には巡りあえなかった。

満たされぬ思いの正体が何なのか分からぬまま私は夜をさまよい、やがて数年が過ぎた——。

Succubus breaking diary

The Before Night

Succubus breaking diary

The Before Night

Succubus breaking diary

The Before Night

どうして忘れていたのだろう——あれほど深く繋がり、激しく燃えあがった、少女と過ごした夜のことを。

遠からず私は、完全に少女のものにされるだろう。どのような形で結末を迎えるのか不安が無いといえば嘘になるが、フレイが私をどのように扱うつもりなのか、少し興味がある。

そういえば、数日前から私の首にはめられている首輪の魔力が弱まっているように感じるが……。
そのことと、記憶がもどったことは　何か関係があるのだろうか。

サキュバス調教日誌④

The Marriage Night
調教されるようになって
数か月――
ある夜、気がつくと何の前触れも
なく魔力が戻っていた

The Marriage Night

The Marriage Night

The Marriage Night
そう、
私は自由――
どこへ行こうと、何をしようと
私を妨げられる者などいない――
ccubus breaking diary

The Marriage Night

Succubus breaking diary

The Marriage Night

The Marriage Night

Succubus breaking diary

The Marriage Night

The Marriage Night

The Marriage Night

快美感に若い肢体が跳ね、
愛らしい唇から
官能の声が漏れる

性感の高まりとともに
表情は艶めかしく輝き、
少女の美貌が牝色に染まる――

女性らしい身体つきに成長した少女には
不似合いな勃起の先端は透明な汁にまみれ、
発情した女性器から、淫らな蜜があふれ出していた

The Marriage Night
いつもならこのあたりで
オチンチンの誘惑に負けてしまって
フェラチオ→シックスナイン→セックス❤
というコースになっちゃうんだけど
今夜は、たっぷり
女の絶頂（メスイキ）させてあげる❤
Succubus breaking diary

The Marriage Night
ベッドの上に座り、膝上に
フレイを跨らせて胸を責める
弾力に満ちたふくらみを
揉みしだき、
かたく勃起した乳首を唇にふくんで
口中でもてあそぶ
両方の乳首が唾液まみれになるころには
フレイは完全にのぼせてしまっており、
勃起の先端を私の腹部にこすりつけるように
腰を揺すっていた
Succubus breaking diary

The Marriage Night

Succubus breaking diary

The Marriage Night

絶頂したフレイは
すっかり脱力してしまった様子で
荒い息をついていた

愛液にまみれた股間を
隠そうともせず、
全身から匂いたつような
女の色香をはなっている

私を抱いている時のような
余裕のある態度を微塵も感じさせない
みだれた姿に、私は自分の中の獣性が
力を増してくるのを感じていた

The Marriage Ni
この愛らしく従順で
すばらしく淫らな牝を、
自分のものにしたい
この娘の秘奥を
私のものでふさぎ、
その内側を満たしたい
私の唇から古の秘義を呼びおこす言葉が
つむがれ、意識が一点に集中してゆく――
Succu eaking diary

軽い目眩を
感じた次の瞬間、
私の身体は、私の望む姿に――
「ペニスのある身体」に、
変化していた

これこそ、夢魔のもつ
能力の中でも特に
希少とされる能力――
「具現」

サキュバスなら誰もがもっている「幻覚」とちがい、
身体の構造そのものを変えてしまう能力で、
本来なら一部の上位夢魔しか使えないものだが
フレイが大量の、それも上質な精をそそいでくれたおかげで
私にも使えるようになったようだ

つまりコレはフレイがくれた能力――
フレイがくれたチ〇ポ❤

なら、筆おろしの相手はフレイにしてもらうのが、もっとも相応しいといえるわよね？

The Marriage Night

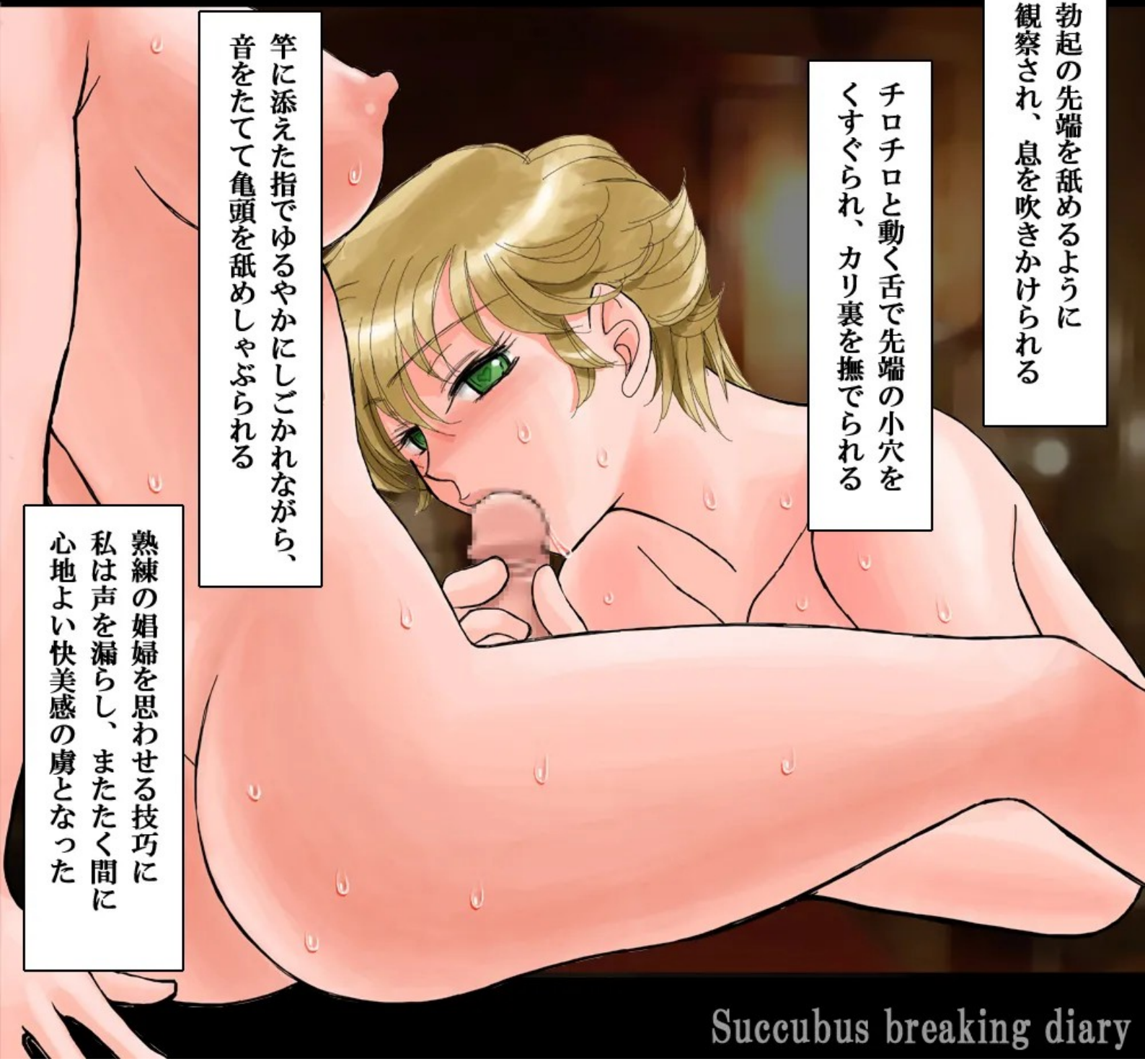
私はフレイの前に腰を下ろすと
誇らしげに勃起を見せつけた

フレイと事に及ぶまえに、私がいま
どのような状態で、どれだけ彼女を欲して
いるか、しっかりと見てもらいたかった

フレイは私のペニスの大きさと太さに少し
驚いたようすだったが、勃起をそっと
手に取り、感触を確かめると、嬉しそうな
表情で「キスしてもいい？」と訊いてきた

もちろん、私は拒否
しなかった

The Marriage Night



Succubus breaking diary

The Marriage Night

フレイはペニスの中に残った精液まで
ぜんぶ吸いつくすとすぐには嚥下せず、
口中にそれをためたまま舌をつきだし、
大きく唇を開いた

濡れた舌に白濁液がこびりつき、
唾液と精液の混ざった汁が
フレイの小さな口の中に
溜まっているのが見える…

そして静かに目を閉じ、
ごくりと嚥下した――

飲んでいる…
フレイが、私のペニスから
はなたれた白濁液を
飲んでいる――

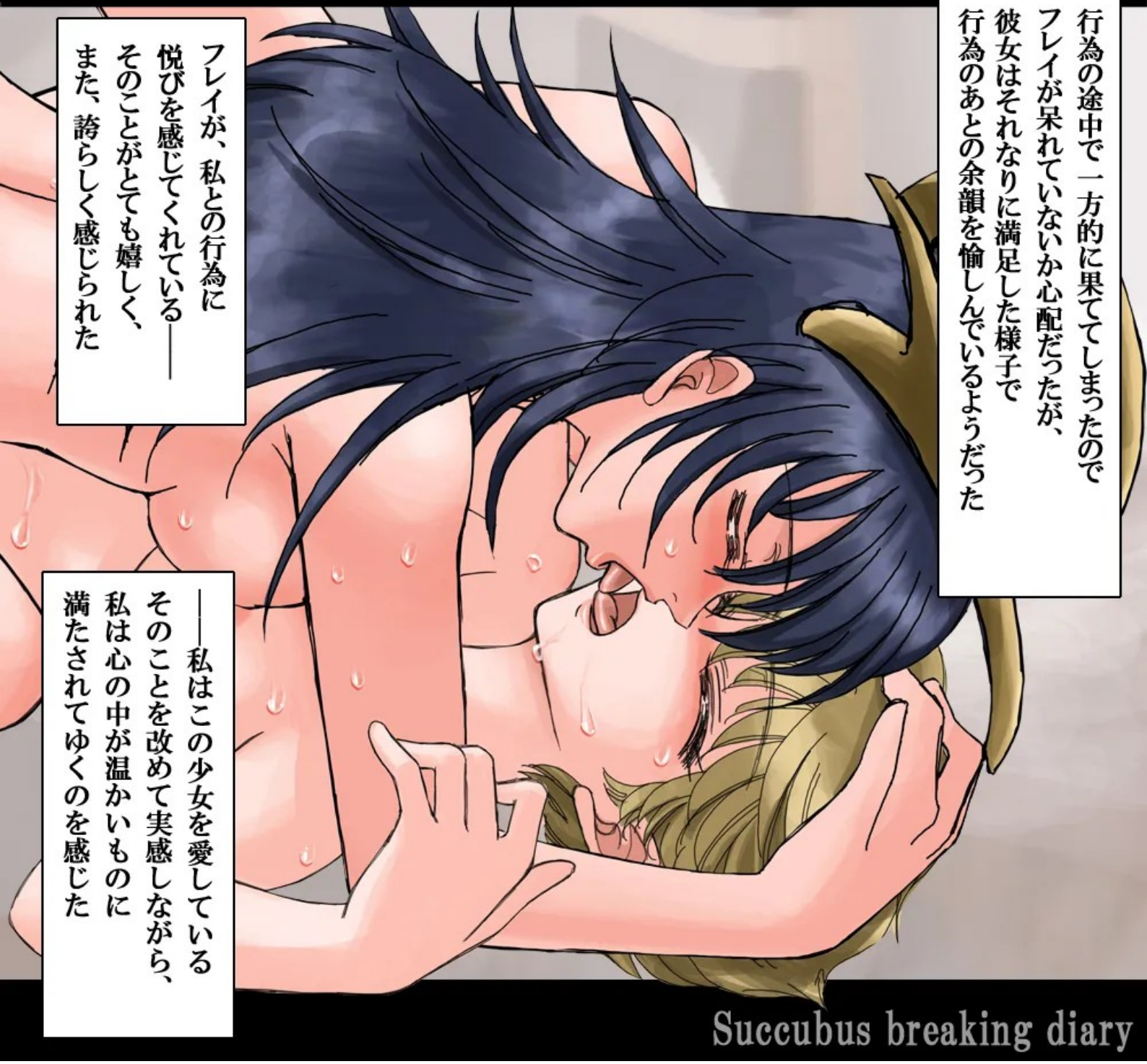
私の欲望と快楽にまみれた汁が
フレイの喉をとおり、
体内に取りこまれてゆく――

精液を飲むくらい何でもないことのはずなのに、
私は彼女の行為に言いようのない
昂奮をおぼえ、この娘が私にはなにかとても尊い、
神聖な存在であるように思えた

The Marriage Nig
我慢できなくなった私は
フレイをベッドに押し倒し、
激しく彼女を犯した
性器が深々と結合し、
愛液にぬめる無数の襞が
ペニスにからみついて
甘美な快感をもたらす
私は無我夢中で腰をつかい、
初めて味わう媚肉の快楽に
恍惚となった
この悦びをいつまでも味わっていたい——
だが、私はすぐにこの交歓が
長くは続かないことを悟った
Succubus breaking diary

The Ma e Night
腰の奥に生じた射精感が急速に
広がり、たちまち腰全体を支配する
このままでは
すぐに果ててしまう――
私は敗北を少しでも遅らせるため
腰の動きを抑えようとしたが、
射精の欲求は自分の意思でどうにか
なるものではなかった
私はより強い快感を得るために
フレイの奥に先端をこすりつけ、
欲望の汁を解き放った――
ubus breaking diary

The Marriage Night



行為の途中で一方的に果ててしまったので
フレイが呆れていないか心配だったが、
彼女はそれなりに満足した様子で
行為のあとの余韻を愉しんでいるようだった

フレイが、私との行為に
悦びを感じてくれている――
そのことがとても嬉しく、
また、誇らしく感じられた

――私はこの少女を愛している
そのことを改めて実感しながら、
私は心の中が温かいものに
満たされてゆくのを感じた

Succubus breaking diary

The Marriage Night
心が温かいもので満たされるとともに
勃起は活力を取り戻し、
私は再びフレイのなかへはいった
この娘をもっと
気持ちよくしてやり
たい——一緒にもっと
気持ちよくなりたい——
私はフレイとつながった
ままゆっくり腰を揺すり、
彼女の気持ちいい部分——
入り口の浅い所を刺激した
するとフレイは
実に可愛い声で鳴きはじめ、
私にしがみついてきた
succubus breaking diary

The Marriage Night
しばらく腰を揺すっていると
フレイの悦びが深くなり、
突き入れたものの先端に丸いプリプリした
かたまりが当たるのを感じるようになる
私の射精を至近で
受け止めるため、
子宮口がおりてきている——
いきそうになっている
私はフレイの耳元に唇をよせ、
「ほしいの？」と訊ねた
フレイは頬を紅潮させながら
こくこくと頷き、私とより深く
繋がれるよう、脚を絡めてきた——
ccubus breaking diary

The Marriage Night
あッ…
フレイのなか…きつく――
熱ッ……！
フレイの膣内がリズミカルに
収縮し、下腹部に熱いしぶきが
飛び散る
フレイ…いま
いってる…❤
わたしも…❤
いってあげる…っ❤
私は深い悦びを感じながら
フレイの最奥に自分をこすりつけ、
歓喜する子宮に欲望の汁を浴びせた
射精はなかなかおさまらず、
フレイの膣から白濁が
あふれるまで続いた
accubus breaking diary

The Marriage Night

フレイの中に出しつくし、
私はようやく結合を解いた

うなだれたペニスが抜け、
膣内から驚くほど大量の精液が
ゴポリと音をたて、こぼれでる

性交のあとも生々しい女性器が
白濁汁にまみれ、ものほしそうに
息づいている――

その淫靡な光景にサキュバスの本能が
刺激され、私はさらに欲情する

The Marriage Night
愛液と精液にまみれたペニスを
フレイにしゃぶってもらいながら、
白濁したたる秘唇に口づける
膣口から漏れる精液を舐めすすり、
味わっていると、それはフレイの愛液と
混じりあい、極上の美酒のように
私を酔わせた
――だがこれは、もともと私が
フレイの中に射精した精液――
それを私が横取りしてしまうのは、
彼女に申し訳なく思う
diary

そういうわけで、
フレイにも飲ませてあげる
ことにした

精液と愛液と唾液の混ざった汁を
口腔に溜めたままフレイに口づけ、
口移しで飲ませる

彼女はそれを頬を紅潮させながら
嬉しそうに味わい、残らず嚥下する
――その愛らしくも淫らな仕草に
私は彼女への欲望が高まるのを感じ、
彼女をベッドに押し倒した

The Marriage Night
フレイの中に射精し、一息ついていると、
背後からいきなり抱きすくめられ、
カタく勃起したものでつらぬかれた
牝の快楽に飢えていた身体はすぐに
反応し、膣がこすられるのを待って
愛液が大量に湧出する
巧みなピストンで奥を突かれながら
手コキされると、もう耐えられなかった
私は歓喜の声をはなちながら
尻を振りたくり、
愛される悦びにすすり泣きを漏らした
私たちはその後むさぼるように
互いを犯しあい、互いの膣に白濁を
そそぎこんだ
king diary

Marriage Night
フレイの中に射精し、一息ついていると、
背後からいきなり抱きすくめられ、
カタく勃起したものでつらぬかれた
牝の快楽に飢えていた身体はすぐに
反応し、膣がこすられるのを待って
愛液が大量に湧出する
巧みなピストンで奥を突かれながら
手コキされると、もう耐えられなかった
私は歓喜の声をはなちながら
尻を振りたくり、
愛される悦びにすすり泣きを漏らした
king diary

The Marriage Night
そのまま眠りに落ち、目覚めると目の前にフレイの笑顔があった
どうやら、ずっと寝顔を見られていたらしい
「ブランカ――私と結婚してくれる?」
私を逃がさないよう馬乗りになって抑え込み、お腹にカタいモノを当てながらフレイが問う
私は降参して、「どっちがお嫁さん?」と訊ねながら、彼女にキスをした
Succubus breaking diary

The Marriage Night

こうして、私たちは互いを妻とし、互いの主人となる誓いをたて、伴侶（パートナー）となった。
どちらかが妊娠したら正式に式を挙げるという段取りだが、さて、どちらが先に相手を孕ませることになるのだろう。
先に孕んだ方がウェディングドレスを着る予定なので、フレイにはぜひ頑張ってもらって、私に花嫁衣装を着させてもらいたいものだ。

そうそう、例の首輪――私の能力を封じていた――は完全に魔力を失い、廃棄される予定だったのだが、いまも私の首を飾っている。
フレイが「もうその首輪を着けなくてもいいのだけど、気に入ったの？」と訊ねてきた。
――うまく答えられないが、この首輪はブランカという名前を貰ったのと同じ日に貴女に貰った大切なものなのだというと、彼女は非常に得心した様子で、後日、同じデザインの首輪をつくり、身に着けてくれるようになった。
以来、私たちは、揃いの首輪を身に着けている。

メイドさんとお嬢さま

メイドさん×お嬢さま

Succubus breaking diary

メイドさん×お嬢さま

Succubus breaking diary

Malika × Freya

メイドさん×お嬢さま

Succubus breaking diary

Malika × Freya

メイドさん×お嬢さま

Succubus breaking diary

気配はするのですが
まだお目覚めに
なられません（棒）

かくなる上はマリーカも
本気で御奉仕しないといけ
ないようですね❤

ふふ…❤
先っぽが先走りの汁で
ヌルヌルですわ…❤

毎晩可愛がっていただいているお礼に
今日はマリーカがお嬢さまのオチンチンを
可愛がってさしあげます❤

Malika × Freya

メイドさん×お嬢さま

Succubus breaking diary

Malika × Freya

メイドさん×お嬢さま

Succubus breaking

メイドさん×お嬢さま
Succubus breaking diary
ですがこの行為は
私自身をも欲情させる
諸刃の剣…
いつしか、私は当初の
目的を忘れお嬢さまの
勃起に秘唇をこすり
つける快感に夢中に
なっていました
この立派なペニスに貫かれ、
激しくピストンされて絶頂に
達したい…
しかし、メイドの分際で
お嬢さまのペニスを勝手に膣内
に挿入するなど僭越の極み
私は発情した性器をお嬢さまの
勃起にこすりつけながら
浅ましく腰を揺り動かし
劣情に身悶えしていました
ちゅるっ
ちゅっ

メイドさん×
Succubus
その時です！
マリーカ！
いいかげんに
しなさいッ！
ころんっ
きゃッ❤
Malika ×
Freya

メイドさん×お嬢さま

Succubus breaking diary

Malika × Freya

メイドさん×お嬢さま

Succubus [illegible]

Malika × Freya

メイド
diary
お嬢さまは私をベッドに組み敷くと
膣口に勃起の先端をあてがい、
濡れそぼる性器をつらぬきました
脈打つペニスが膣襞を
かき回し、私の唇から
悦びの声が漏れ出ます
Malika ×
Freya

メイドさん×お嬢さま

Succubus breaking diary

私たちは情欲のおもむくまま
みだらに身体を揺り動かし、
互いをもとめました

やがてお嬢さまの吐息に
切ないものが混じりはじめ、
甘い声が漏れ出ます

私はお嬢さまのすべてを
受け止められるよう
お嬢さまの腰に脚を絡め、
深く迎え入れました

お嬢さまが強く腰を打ちつけた瞬間
私の中で激しい熱が弾け、私は歓喜の
声をはなちながら絶頂に達しました

Malika × Freya

メイドさん×お嬢さま

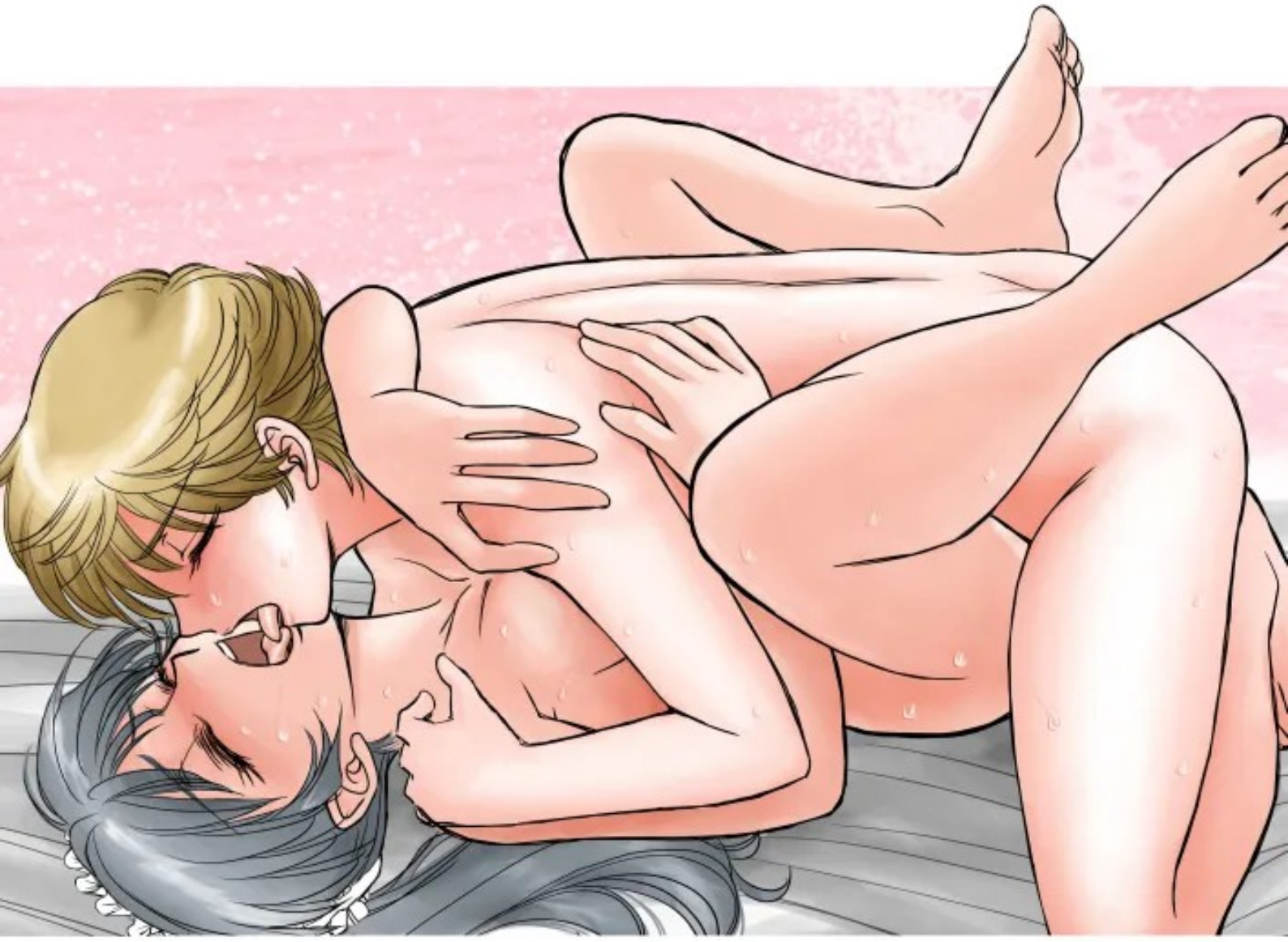
Succubus breaking

結局、私は午前の時間を目いっぱい使って奉仕に勤しみ、お嬢さまに三回も精をはなっていただきました。
お嬢さまはこの後、ブランカさまの調教を始める御予定です。
どうやらお嬢さまは私をブランカさまの調教に参加させる心づもりのようで、どのような調教になるのか、今から楽しみです。

奉仕が終了しました。

Malika × Freya

ふたなりお嬢さまの射精メカニズム



私のお嬢さまは玉なしのふたなりです。
女性器を隠す睾丸が無いおかげで可憐なお姫さまが丸見えとなり、たいへん愛らしい御姿であらせられるのですが、反面「精子は作られるのか」「もしかして種無し？」という疑問が付いて回ります。
結論から申しますと、無論、お嬢さまの精液に精子はありますし、私を孕ませることもできるのですが、これまでそういったことは詳しく論じられてきませんでした。
そこで、今日は私、マリーカが、お嬢さまの射精メカニズムについて詳しく解説いたします。

1．玉なしふたなりの構造

詳細な図説でお嬢さまの陰部を解説したい所ですが、モザイクだらけになってしまうので、医学書ふう断面図で説明します。

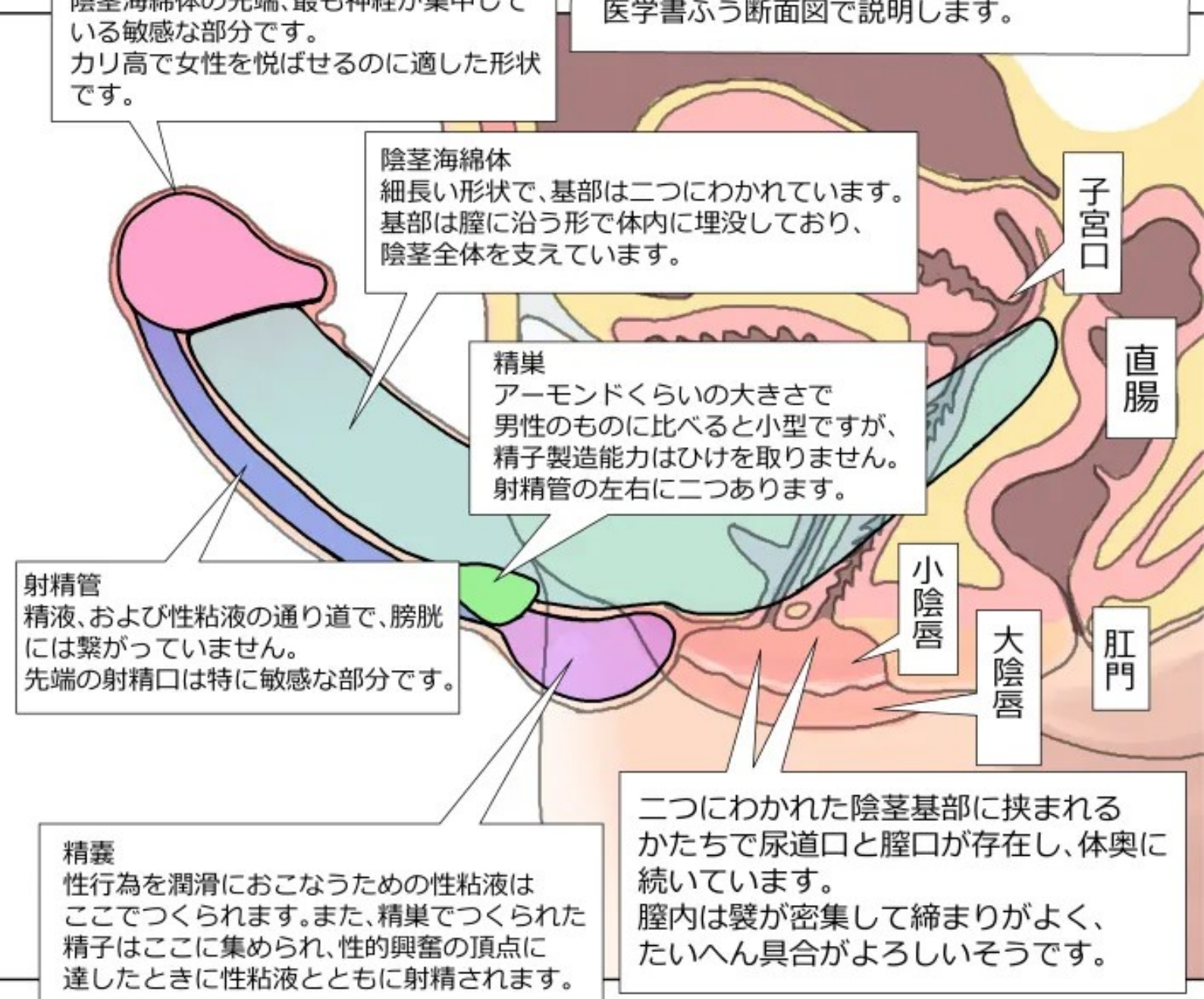
亀頭
陰茎海綿体の先端、最も神経が集中している敏感な部分です。
カリ高で女性を悦ばせるのに適した形状です。

陰茎海綿体
細長い形状で、基部は二つにわかれています。
基部は膣に沿う形で体内に埋没しており、
陰茎全体を支えています。

精巣
アーモンドくらいの大きさで
男性のものに比べると小型ですが、
精子製造能力はひけを取りません。
射精管の左右に二つあります。

射精管
精液、および性粘液の通り道で、膀胱には繋がっていません。
先端の射精口は特に敏感な部分です。

精嚢
性行為を潤滑におこなうための性粘液はここでつくられます。また、精巣でつくられた精子はここに集められ、性的興奮の頂点に達したときに性粘液とともに射精されます。



二つにわかれた陰茎基部に挟まれるかたちで尿道口と膣口が存在し、体奥に続いています。
膣内は襞が密集して締まりがよく、たいへん具合がよろしいそうです。

上図はフル勃起時のものですが、通常時は親指くらいの大きさとなりますので、じゅうぶん女性用下着の中に収まります。
お嬢さまは皮余りの包茎でいらっしゃいますので包皮内の衛生状態には特に気を付けており、御入浴のさいはマリーカが洗浄しています。

2．ふたなりの性感

男性と女性、双方の快感を得られるふたなり女性は、
性行為においてどのような感じ方をするのでしょう。

お嬢さまの性的欲求を満たしてさしあげるには女性としての悦びを感じさせてあげるのが一番
現在はブランカさまにお任せしているのですが、時にはマリーカが「竿役」を務めさせていただくこともあります
ペニスバンドを装着して犯してさしあげますとお嬢さまはすっかり蕩けきった牝の表情になられ、マリーカの奉仕に歓喜の声をあげられます
ふたなり女性は膣への抽挿により陰茎基部の敏感な部分が刺激され、非常に強い快感を得ることができます
うまく誘導してあげれば膣とペニスの両方で同時に絶頂に達することも可能です
射精しながらの絶頂――それは普通の女性では決して味わうことのできない、素晴らしい快感であるといわれています

3．ふたなりの妊娠

私は、普通ならすでに三人くらい赤ちゃんを産んでいてもおかしくないくらいお嬢さまにナマ中出しされているのですが、未だ妊娠の経験がありません。　これには理由があるのです。

実演：お嬢さまの子作りセックス

それではおまけに、お嬢さまとブランカさまが毎日おこなっている子作りセックスを皆さまに御覧になっていただきましょう。

お嬢さまが種つけされる番になるとマリーカもベッドに招かれ、お二人の介添えを務めさせていただきます
ブランカさまに性器をつらぬかれ、牝のよろこびに震えながらいきり勃ったペニスをもてあますお嬢さまの姿はなんとも愛らしく…♡
大きく脚を開き、濡れそぼる股間を晒してみせると、お嬢さまは切ない表情でマリーカに覆いかぶさり、脈打つものを挿し入れてきます
ブランカさまの情熱的な律動に声をあげながらマリーカの中のペニスを震わせ、激しく腰をつかうお嬢さまはこの上なく美しく淫らで…
ブランカさまに膣内射精(なかだし)されると歓喜の表情でマリーカにしがみつき、熱くたぎる白濁をほとばしらせるのです――

数時間におよぶ子作りセックスに
励んだあとはさすがのお嬢さまも少々お疲れ…
なすすべなく私たちのおもちゃにされて
種付けオマ○コを隅々まで観察されます♡
ふふ…っ♡
ブランカさまにたくさん
中出ししてもらえて
良かったですね…♡
どちらが先にお孕みに
なられるのか、
マリーカはとても楽しみです♡

ガールズスタリオン
Girls Stallion

私はサキュバスの
ブランカ

そして彼女は、
私の御主人さまのフレイヤ

色々あって結ばれた私たちは、
愛に満ちた日々を過ごしている――

私たちは毎夜、
生まれたままの姿で
愛しあう

弱い部分を熟知した巧みな愛撫に
私は感嘆の声を漏らし、
彼女の指の動きを受け入れている

興奮が高まるにつれ
乳房が熱く重く張りつめ、
先端から母乳に似た乳白色の
液体がにじみ出る

媚薬・強壮効果のあるそれを
フレイが美味しそうに飲み、
股間をガチガチに勃起させる――
その姿を、私は陶然と眺めていた

互いの性器に口をつけ、
シックスナインの姿勢で
奉仕する

私はフレイの口元に股間を
おしつけながら彼女のペニスを頬張り、
念入りな口腔性交（フェラチオ）にふけった

――準備が整ったので
体位を変え、迎え入れる
姿勢をとる

フレイが私の脚のあいだに腰を入れると
舐めあった性器は滑らかに結合し、
私たちの唇から深い満足の声が漏れる――

巧みな腰づかいが
私を征服し、またたくまに
官能が高まってくる

絶頂が近い事を感じた私は
夢中で彼女の腰に脚を絡め、
膣内への射精を懇願した――

フレイが私の股間に強く腰を
おしつけた瞬間、膣奥に熱のかたまりが
浴びせられた――射精している

私は絶頂しながら
膣内への射精に歓喜し、
激しく潮をふいた――

膣内に射精され、
心地よい疲労を感じながら
絶頂の余韻を愉しむ

はあ♡

はあ♡

この愛らしく利発で
欲望に忠実な少女――

このまま休みたい誘惑に
駆られるが、お愉しみの時間は
まだ始まったばかりだ

私の可愛い御主人さまに、
牝（オンナ）としての悦びを味わってもらう番だ――♥

私は股間にペニスを顕現させると、
誇らしげにフレイに見せつけた

股間に熱があつまるとともに、
暴力的な衝動が高まるのを感じる

この獣欲を、はやく解きはなちたい……
勃起にたまった熱い欲望を、愛する娘の
体奥にぶちまけたい…

嬉々として勃起した
ペニスをつきだす

彼女は微笑を浮かべながら
勃起を手に取ると、愛しそうに
頬ずりしてきた

フレイが亀頭にキスして、
鈴口に滲む先走りを
優しく吸い出す

舌先で敏感な部分を
くすぐられると、もうこの時点で
射精感がこみあげてくる

唾液をたっぷりまぶして、
亀頭全体をしゃぶられる

私の反応をさぐりながら
舌をつかい、確実に性感を
高めてくる

あぁっ…❤
ま、丸のみ…っ❤

男根全体を咥えられる快感に
私は声を漏らし、彼女に
射精が近いことを伝えた

フレイがうながすように
深く咥え、強く吸引した瞬間、
私は達した

少女の口腔に、私の
欲望と劣情にまみれた白濁が
はなたれる――

――飲ませるより、
彼女をけがしたかった

私はフレイの口から男根を引き抜くと
射精の続くペニスを美貌になすりつけ、
生温かい汁を顔中に塗りたくった

精液まみれのフレイの姿に
私はますます昂ぶり、彼女を
ベッドに押し倒した

唇をキスでむさぼると、
精液の味がした

私が浴びせた精液を舐め清めながら
上気した肌をまさぐり、彼女が
私を受け入れられるように愛撫する

フレイの唇から甘い声が漏れはじめ、
艶めかしい牝の表情になる

彼女の身体のあらゆる部分――
愛らしい唇、乳房、へそ、尻、性器、
肛門まで舐めまわし、私の匂いをつける

——ホンバンの前に、一発ヌイておいてあげよう

私は彼女のペニスを手でしごきながら性器を指でつらぬき、内側をかき混ぜた

フレイの好きな部分を集中的に責めると彼女は弓のようにのけぞり、私の指を締めながら潮を吹いて射精した

——呼吸をととのえながら様子をうかがう——

——一度イッたおかげで少し落ち着いているが、その表情は成熟し、発情した牝の色香を漂わせ、これからはじまる行為への期待に輝いていた——

私をみつめる期待の眼差しの前に、理性はけしとんだ

フレイを組み敷き、性器を結合させる

トロトロに発情した襞がペニスに吸いつき、甘美な締めつけが私を包む

気持ちいい…この気持ちいい穴の中で射精したい…

私はペニスの快楽の虜となり、取りつかれたように腰を振りたくった

あっというまに興奮は頂点を極め、射精する

おびただしい量の精液が勢いよく膣内に撒き散らされ、膣襞の奥まで白濁で満たした

だが、一度射精したくらいで
私の欲望はおさまらない
私はフレイを抱きしめながら激しく
腰を打ちつけ、ペニスのストロークを利用して
膣内を満たす精液をかきまぜた
幾度となく膣奥に浴びせられる
白濁の熱にフレイは歓喜し
牝の絶頂（メスイキ）を繰り返しながら
何度も射精した

Girls Stallion

私たちは飽きることなく
互いにもとめあい、犯しあった

膣襞の奥まで精液で満たし、
あふれた精液がベッドに
淫らな染みをひろげても、
私たちの欲望が尽きることは
なかった

私たちは互いにすべてを
与えるとともに
すべてをむさぼり——

口も、性器も、乳房も、
尻の穴にいたるまで犯しつくし、
白濁をそそぎこんだ

Succubus Diaries

私たちは互いにペニスをつかみ、
迎え入れる姿勢を取ると、
相手の膣に挿入した

犯し犯される快感に
すすり泣きを漏らし、
腰を揺すって昇りつめる

フレイが絶頂し、
膣にドクドクと
精液がしみ込んできた

同時に私も絶頂し、
彼女の中に射精する

私の中の彼女がビクンと震え、
さらに精液を吐き出す

絶頂と射精は長く
緩慢につづき、私たちの膣は
互いのはなった白濁であふれた

抱いているのか抱かれているのか
それすらも分からなくなるほど
互いを犯しつくしたのち、
私たちはようやく結合を解いた

私たちは抱きあったまま
眠りにつき、目覚めた時には
昼過ぎだった
身体に張りついた精液が
すっかり乾き、ポロポロと
はがれおちてゆく
私たちはしばらく談笑していたが、
ふと見ると、彼女の股間のモノが
天を衝くように勃起しているのに気づいた
…いくらなんでも元気すぎると
思うのだが——実を言うと、私も
少しそういう気分になっていた
——私は彼女にむかって
ほほ笑みかけると、膝に置いた手を
そろそろと動かしはじめた——